

# 第102回理事会 平成31年度予算要望を審議

東京ビル政連は7月3日、ビルメンテナンス会館で「第102回理事会」を開催し、「平成31年度予算要望 ビルメンテナンス業関係施策」



冒頭挨拶をする梶山龍誠理事長



議長をつとめた榎本副理事長



理事会の様子

と「平成30年 政治資金パーティ・選挙等への対応」について審議した。

梶山龍誠理事長は冒頭「サッカー・ワールドカップで日本は負けてしまいました。選手たちがロカールームをきれいに掃除して退いたり、観客席のサポーターもごみを拾ったりしていたことが話題になりました。日本の美意識に関する常識が、世界から注目されております。東京オリンピックでも何かの形で、我々もそういう協力ができればと思うところがございます」と挨拶。

さらに、「7月に入りまして、政治連盟としては、東京都や国への予算要望活動が本格化してまいります。本日の議案、東京都への予算要望は、選挙の予定がない今年、業界の声を行政に届ける貴重な機会でございます。本日の報告案件は、議案に関わる内容でございますので、報告、議案の順に進め、皆様の忌憚のないご意見を頂ければと思います」と、率直な意見の交換と審議を要請した。

報告事項は、「平成30年度東京都所有の建築物の維持管理に関する要望の回答について」と「平成30年度上期収支報告書(案)」の2つ。ともに石井千寿事務局長が説明した。要望の回答については、各要望事項の「実現」「一部実

現「保留」「未実現」の状況を、平成27年度から平成30年度まで一覽で提示。「落札金額、毎年度適正な予定価格を設定」や「予定価格にインスペクション等の費用追加対応」は実現した一方、「総合管理案件において、JVでの入札参加」「大きい案件限定で『入札ボンド制度』導入について」「障害者雇用促進モデル入札復活」は未実現となっている

ことから、「実現できていないものを今後も要望を続けていく」とした。上期収支報告書については、「収入の部は、当期の収入予算額に対して約半分。数字的には順調に推移しております。支出の部は、当期の支出予算額約1400万円に対して支出が約360万円、残

が約1040万円という状況でございます」と報告。審議事項の「平成31年度予算要望 ビルメンテナンス業関係施策」の提案説明は横田英雄幹事長が担当し、「昨年度の回答や要望の進捗状況を踏まえ、内容の精査を行い、要望活動の成果が得られ、進展している内容は削除し、重要な要望に注力するように修正いたしました」と、修正箇所を具体的に説明。審議の結果、全会一致で承認された。

「平成30年 政治資金パーティ・選挙等への対応」については、石井事務局長が説明。規定を基に十分な意見交換協議を行い、対応を決定した。このほか、「都議会公明党平成31年度東京都予算に対するヒアリング」と「2〜6月の動きと今後の予定」について石井事務局長が説明し、スケジュールを調整した。

株式会社 東京クリアセンター

代表取締役 熊木 浩

〒100-0014 東京都千代田区永田町二一四一三 永田ビル九階 電話(〇三)五二五七一一八八一

株式会社 東幸

代表取締役 上之原 靖

〒105-0003 東京都港区西新橋一〇九一〇 電話(〇三)三五〇三三三九五

株式会社 ビケンテクノ

代表取締役 梶山 龍誠

〒140-0002 東京都品川区東品川二二二一四 天王洲ファーストタワー一六階 電話(〇三)六八六四一七一〇〇

不二興産 株式会社

代表取締役 寺嶋 正彦

〒169-0073 東京都新宿区百人町一三二二六 電話(〇三)五三三〇一八八三一

株式会社 プロスペック

代表取締役 鈴木 雅之

〒164-0001 東京都中野区中野一〇二七一六 電話(〇三)三三二七二七〇七

ペンギンワックス 株式会社 東京支店

代表取締役 藤本 公祥

〒165-0021 東京都中野区丸山一〇二七一六 電話(〇三)三三八七一九三八

株式会社 ホシカワ

代表取締役 星川 雅樹

〒113-0033 東京都文京区本郷二一八一一 電話(〇三)三八一四一七二五五

株式会社 リンレイ

代表取締役 鈴木 信也

〒104-0061 東京都中央区銀座四一〇一三 電話(〇三)三五四一一四八五一

## 労災ゼロに向け ~東京協会が事例集を発行~



「災害発生報告・事例集」二版(第二巻)を発行した(二版第一巻は平成27年に発行)。会員から提供された災害事例と、(公社)全国ビルメンテナンス協会が集計した災害事例をもとに作成し、全17例を掲載している。ビルメン業の労働災害で一番多いのは「転倒災害」で全体の約45%、二番目は「墜落・転落災害」で約24%、三番目は「動作の反動・無理な動作」で約12%を占めている。発生割合としては二番目であるが、ビルメン業で発生している死亡災害の多くは「墜

(公社)東京ビルメンテナンス協会は、ビルメン業の労働災害「ゼロ」に向け、「災害発生報告・事例集」二版(第二巻)を発行した(二版第一巻は平成27年に発行)。会員から提供された災害事例と、(公社)全国ビルメンテナンス協会が集計した災害事例をもとに作成し、全17例を掲載している。ビルメン業の労働災害で一番多いのは「転倒災害」で全体の約45%、二番目は「墜落・転落災害」で約24%、三番目は「動作の反動・無理な動作」で約12%を占めている。発生割合としては二番目であるが、ビルメン業で発生している死亡災害の多くは「墜落・転落災害」である。発生すると重篤事故につながる可能性があることから、「2連梯子を使って2階ガラスを清掃中、高さ4〜5m付近から墜落した」。「建物に据え付けたタラップが外れ墜落」。「屋根清掃時に足場支柱から墜落」。「ガラス外装清掃作業における墜落・転落(死亡)事例」など、全17例中「墜落・転落災害」を10例掲載。また、各事例の再発防止対策をはじめ、「転倒災害防止について」「ガラス清掃による災害防止対策」「はしごや脚立からの墜落・転落災害をなくしましょう」といった詳しい解説や「転倒災害防止のためのチェックシート」なども収録。印刷版は会員に配布。PDF版は誰でも閲覧できるので災害防止活動に活用された(https://www.tokyo-bm.or.jp/dcms-media/other/saigajinet2ham.pdf)。



企業名/50音順